

## 116. マツ実生苗に対する青変菌その他菌類の根部接種

林業試験場九州支場 堂 園 安 生

### 1. はじめに

マツ枯損被害の発生しているマツ林内で、マツ枯損木、あるいは多少衰弱したマツの根や生立木の根に発生していた菌類を採集し、その子実体から、菌の純粋分離をすることができた。また、マツの青変菌3種の

分譲をけたので、これら菌類の病原性を知るためにマツ実生苗を用いて接種試験をおこなったので結果を報告する。なお、青変菌の種菌は林試菌類研究室長青島技官から分譲されたものである。厚くお礼を申しあげる。

表一 I 供試菌の種類

供 試 菌 名	採 集 場 所	子実体発生	分離母体	分離年月日
Ceratocystis minor	静岡県小笠郡掛川			1954
C, ips	八王子市林試浅川実験林			1949
C, piceae	北海道上磯郡木古内			1953
オオウズラタケ	鹿児島県川内市寄田	伐 根	子 実 体	1968 6.10
Panus. sp	〃	マツの根部	〃	〃 6.29
コツブタケ	〃	マツ林地上	〃	〃 6.10
アズマタケ	熊本県水俣市袋	生立木の根	〃	〃 7.23

### 材 料

接種に供した材料は表一に示したとおりである。

#### 2. 接種方法

##### 1. 接種菌の培養

オガ屑4、米糠1の容量比で調製されたオガ屑培養基に、種菌を移植し 25°C の定温器内で75日培養したものを接種源とした。

##### 2. 種子消毒

種子は水道水に2昼夜浸漬して発芽促進処理をおこない、ウスプルン2%液で3時間消毒した。しかるのち種子表面に接着しているウスプルンを、殺菌水で3回程洗滌した。

##### 3. 接 種

常法により、あらかじめ消毒しておいた内径20cm高さ18cmの植木鉢の土じょうに、表面から3cmと8cmの深さに、オガ屑培養菌の屑を作って埋込み、発芽した稚苗の根が二重に接触するようにした。

##### 4. 管 理

供試鉢の管理は、1週間に1回の割合で灌水をした程度で特別な管理はおこなっていない。

表一 2 播種後3ヶ月の経過

供 試 菌 名	鉢数	播種 粒数	発芽 数	枯死 数	播種および 接種年月日	備 考
Ceratocyst is minor	3	150	102	1	43. 7.31	子実体発生
C, ips	3	150	111	2	〃	
C, Piceae	3	150	101	4	〃	
オオウズラタケ	3	90	73	1	〃	
Panus, sp	3	90	71	1	〃	
コツブタケ	3	90	73	4	〃	
アズマタケ	3	90	74	2	〃	
対照 (オガ屑入)	3	150	121	9	〃	
対 照	3	150	124	8	〃	

### 3. 結果および考察

接種試験の結果は、表一に示すとおりである。青変菌3種、すなわち Ceratocystis minor, C. ips.-C. piceae をはじめ、その他の菌類にも問題になる程の枯死はでていない、接種鉢よりも対照的区に多くでている。したがって、青変菌およびその他の菌類の中にも、マツ実生苗根部に対しての病原性は弱いように考えられる。しかしながら、一度、マツの幹部に侵入した場合、これらの菌、とくに青変菌などが病原性を示さないかどうか、現段階では速断できない。